表 4. 原子核乾板方式のミュオン観測機器開発.

時期	開発要素	実証試験, 性能等
2010	【スタートアップ】乾板画像読み取り装置 1 台目設置・調整	読取処理速度 $0.5 \text{ m}^2 / \text{month} / \text{system}$
2012	【高速化】乾板画像読み取り装置 2 台目設置・調整(伊・サレルノ大学との共同研究) 【低雑音化】鉛／乾板の多層型検出器開発	・昭和新山 背景雑音を、従来型の 10% 以下に低減
2013	【高速化】読取装置 4 倍速化に成功。 2014 年には 10 倍速化を目標	読取処理速度 $2 \text{ m}^2 / \text{month} / \text{system}$